

川端康成全集 第十八卷

川端康成全集

第十八卷

文學時評 III

新潮社

川端康成全集第十八卷

文學時評 III



昭和四十九年一月三十日 發行
昭和五十二年八月十日 四刷

定價 二千八百圓

著者 川端康成

發行者 佐藤亮一

印刷者 塚田重

印刷所 塚田印刷株式會社

製本所 新宿加藤製本

東京都新宿區矢來町七一

發行所 株式會社 新潮社

電話 業務部 東京三六一五二
編集部 東京三六一五二
〒一三 振替東京四一八〇八番

謹注 落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛御送付
下さい。送料小社負擔にてお取替へいたします。

第十八卷

目
次

昭和八年

三月文壇の一印象.....一五

自由主義作品の一例.....一五

なぜ既成作家に反抗せぬ
—新進作家に與ふる書—.....三一

文藝時評（六月）.....三一

文藝時評（七月）.....三九

文藝時評（七月）.....四六

純文學の精神.....六六

文藝時評（八月）.....七三

「文學界」創刊號編輯後記.....八二

文藝時評（十一月）

八四

佐藤惣之助氏の「燕書」

八七

梶井基次郎全集

八九

同人雑誌評に代へて

九一

「秋——本と音樂と」

九三

昭和九年

文藝復興とは

九九

新人待望

一〇二

文藝時評（二月）

一〇四

文藝時評（二月）

一一一

新人に就て

一二九

作家と作品	[三]
宇野浩一氏の「枯木のある風景」	[三]
今日の作家	[三]
文藝時評(七月)	[六]
俗論	[二]
矢田津世子氏	[六]
新人の強さ	[六]
私の事	[六]
文藝時評(十月)	[七]
文藝時評(九月)	[一〇〇]

都會と田舎 一一一
——都會文學の立場より——

批評、主として月評に就て 一一三
一一五

「獨樂廻し」に就て 一一六
一一八

〈最も印象深かつたもの〉 一一四
一一六

昭和十年

「小說の嘘」に就て 一一七
一一九

横光利一氏 一一九
一一九

匿名批評 一二〇
一二二

片岡、伊藤氏の月評 一二三
一二五

文藝時評 一二六
一二六

——新年諸雑誌の作品——

文藝時評

—作家の實際論—

二五六

尾崎士郎氏の「人生劇場」

二六九

「一番面白い戀愛小説は何か?」

二七〇

「純粹小説論」の反響

二七一

文學志望者のために

二七二

文藝時評

二七三

—批評は貧しいが、しかし作家も忙しい—

文藝時評(八月)

二七四

文藝の反逆

二七五

文藝懇話會

二七六

—文藝時評—

瀧井孝作氏の「無限抱擁」

二七七

文藝時評（十一月）

三三三

太宰治氏へ芥川賞に就て

三三三

旅中文學感

三三三

文藝時評（十二月）

三四三

純文藝雜誌歸還說

三三三

文藝時評（十二月）

三三三

昭和十一年

私小說的文藝批評

三三三

—フロオベルの書簡と島木健作氏の「生活」—

新刊數種

三六一

續私小說的文藝批評

三八四

雜

言

一九〇

本に據る感想

三九

「鶴は病みき」の作者

四〇

〈文學賞を與へるとすれば〉

—昨年度に於ける作品について—

四一

文藝批評に就いて

四二

鈴木三重吉

四三

日本美論

四四

文藝行路

四五

歎應へある新人作品

四六

芥川賞豫選記

四七

—文藝時評—

「死の文學」……………四八

自然描寫……………〇三

改造造……………三一

藝術語改造……………三三

旅愁の日本……………三六

昭和十二年

「ハワイ物語」に序し、渡航を送る……………四一

祝辭（「人民文庫」一周年記念）……………四二

（林房雄を検討する）……………四四

長篇小説評……………四五

昭和十三年

新萬葉集

文藝時評（九月）

文藝時評（十一月）

四二
四一

四七

文
學
時
評
III

昭
和
八
年

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com